

2016 年度活動報告

I. 2016 年度活動の概要 (期間 ; 2016 年 4 月 1 日～17 年 3 月 31 日)

1. 実施事業の概要

第 3 期中期計画 (2013～2015 年度) は 2015 年度に終了した。本来であれば、2016 年度から新たな中期計画のもとで活動することになるが、まちぽっと検討プロジェクトの答申を受け、2016 年度は組織改革を行う暫定的な年として中期計画を持たずに活動した。

2016 年度事業一覧

分野	事業形態	事業名	財源	備考
市民自治 市民参加	独自/継続	1. 市民参加手法研究	自己資金	
	独自/継続	2. NPO 法記録、国立公文書館寄贈 P J	助成金	2015, 2016 年事業
	独自/新規	3. NPO 法記録、編纂記録活用 P J	助成金	2016 年度事業
	委託/新規	4. 東京構想 作成	委託費	2016 年 4 月～10 月
福祉のま ちづくり	独自/継続	5. 福祉のまちづくり	自己資金	
	委託/継続	6. もうひとつの住まい方推進協議会	委託費	フォーラムの開催
	委託/継続	7. スケルトン定借普及センター	委託費	
市民 ファンド	独自/継続	8. 草の根市民基金・ぐらん	寄付金	
	独自/継続	9. ソーシャル・ジャスティス基金	寄付金	
	委託/新規	10. 明日へ基金	委託費	2016, 2017 年事業
	委託/継続	11. 市民ファンド推進基金 コーディネート	委託費	2015, 2016 年事業
	独自/継続	12. 新宿区市民ファンド企画	自己資金 助成金	区内 NGO との協働事業
委託事業 活動支援	委託/継続	13. 桜美林大学 NGO/NPO 実務実習	委託費	前期、後期
	委託/新規	14. 築地市場、豊洲移転問題政策立案 P J	委託費	2017 年 2 月～
	独自/継続	15. 市民活動支援	-	
	独自/継続	16. 自治体支援	-	
情報発信	独自/継続	17. まちぽっとセミナー	参加費	セミナー企画
	独自/継続	18. 季刊誌「季刊アドボカシー」	会費等	出版
	独自/新規	19. 出版「公共施設建築 (仮)」	売上	*完成は 2017 年 4 月
	独自/継続	20. HP、メールマガジン	自己資金	情報発信

2. 組織運営

1) 会員

会員数は2016年度末では、正会員88(団体25、個人63)、賛助会員が37(団体15、個人22)、総数125である。2015年度末に比べて、正会員が2増、賛助会員が9減で、全体では7減となった。2016年度は退職や高齢に伴う個人賛助会員の脱退が複数あったことが特徴となっている。

2) 組織運営

理事会は理事14名で構成し、8回開催した。また、理事会への議案などを検討する理事長、副理事長、会計担当による役員会を8回行った。事務局体制は4名の常勤スタッフで担った(内1名は11月より)。経理については、引き続き東京市民調査会に委託を行った。

草の根市民基金・ぐらん、ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)、明日へ基金については、市民からの指定寄付金を財源とする助成事業であることから、理事会のもとでの「草の根市民基金・ぐらん運営委員会」、「SJF 運営委員会」、「明日へ基金運営委員会」による管理運営を基本とし、その決定事項を理事会で承認した。

3. 財政

1) 2016年度財政

NPO 法人会計基準を採用し、「活動計算書」および財務諸表を作成した。また、草の根市民基金・ぐらん、ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)は本会計から分離して特別会計としている。

各会計の決算は以下のとおり。

(円)

	経常収益	経常費用	当期増減額	次期繰越額
本会計	13,452,550	12,562,061	890,489	4,081,431
草の根市民基金	5,978,245	5,718,425	259,820	6,976,205
SJF	3,490,243	3,485,471	4,772	177,388
計	22,921,038	21,765,957	1,155,081	11,235,024

*本会計の経常収益は「明日へ基金」前受助成金30万円、「市民社会創造ファンド」前受け助成金60万円を除いた額

*SJFは2017年6月末に助成団体へ振込む150万円を未払い助成金として計上

(1) 本会計

本会計の経常収益は1345万2550円(予算額903万円)。経常費用は1256万2061円(予算額885万円)。当期増減額89万0489円のプラスとなり、次期繰越額は408万1431円である。経常収益のうち、会費が160万7000円(予算額164.5万円)、寄付金は346万円8110円(予算額130万円)、助成金が290万円(予算額280万円)。受託事業など事業収入が591万1332円(予算額328万円)である。

本会計の経常費用では、事業の増加に伴い雇用費と調査研究費が予算から増大した。委託事業の増加と生活クラブ生活協同組合から受けた寄付収入が、今期の財政をプラスとした要因である。

(2) 草の根市民基金・ぐらん、S J F

草の根市民基金・ぐらんは、経常収益は5,978,245万円。うち約587万円が生活クラブ組合員を中心とした寄付である。経常費用は団体への助成金400万円、人件費、広報費、事務経費など約171万円。当期増減額は約26万円のプラスになった。

SJFは経常収益3,490,243円のうち、サポーター、団体等からの寄付金が約316万円、アドボカシーカフェや調査研究事業の事業収益が約23万、受け取り助成金10万円である。経常費用は約348万円。うち3団体への助成金が300万円である。助成金の半額150万円は、2017年6月末に助成団体へ振込むことを予定しているため未払い助成金として計上している。当期増減額は約5千円のプラスとなった。

II. 2016 年度活動報告 (期間 ; 2016 年 4 月 1 日～17 年 3 月 31 日)

実施事業報告

1. 市民自治・市民参加

1) 市民討議会など市民参加手法の実践を通じた討議民主主義の調査研究

■2016 年度事業内容

(1) 調査研究活動

- ・他の事業を優先させ、着手せず。

2) NPO 法制度制定の編纂記録、公文書化事業

事業目的	2014 年度にまとめた NPO 法制度制定の編纂記録を長く保存し、今後の有益な資料とするため国立公文書館へ寄贈する
事業手法	編纂委員会および作業チームを設置し、寄贈に必要な保全作業、整理作業、及び利用制限作業を行った後、国立公文書館との調整の上で資料を寄贈する
資金源	助成金 300 万円 (庭野平和財団、三菱財団、笹川平和財団、トヨタ財団)
事業期間	15 年 4 月～17 年 3 月

■2016 年度事業内容

- ・2015 年に寄贈のための編纂を行い、2016 年は個人情報保護や著作権確認に関する作業を行なった。国立公文書館への寄贈は 3 月を予定していたが、国会関連の資料が集中する年度末を避けて欲しい等の依頼があり 2017 年 6 月に行うこととなった。

3) NPO 法制度制定の編纂記録、社会活用事業

事業目的	国立公文書館へ寄贈する資料を広く社会活用が可能とするため、研究会、フォーラム等を行い、PJ 全体を HP 等で公開する
事業手法	委員会を設置して連続フォーラム等を行い、最終的に HP で成果を公開する。
資金源	助成金 80 万円 (庭野平和財団)
事業期間	16 年 2 月～17 年 3 月

■2016 年度事業内容

- ・メンバー ; 坪郷實 (理事)、三木由希子 (理事)、新田英理子 (認定 NPO 法人日本 NPO センター事務局長)、関口宏聡 (NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会代表理事)

* 第 1 回フォーラム「NPO 法のあり得た可能性と現在の課題

—NPO 法制定時の議論を振り返り、今後のセクターを考える」

◆日時、場所 ; 9 月 29 日 18:30～21:00、四谷地域センター12 階多目的ホール 参加者 : 50 名

◆第 1 部 : 市民・行政等で繰り広げた NPO 法制定までのさまざまな議論と、その結論

辻 利夫 (認定 NPO 法人まちぼっと)

原田 峻 (立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科 助教)

第 2 部 : パネルディスカッション「NPO の持つ可能性を広げるために」

鈴木 敦子 (NPO 法人 ETIC. 事務局長)

新田 英理子（認定 NPO 法人日本 NPO センター事務局長）
 関口 宏聡（認定 NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会代表理事）
 山岡 義典（公益財団法人助成財団センター理事長） / コメンテーター

* 第 2 回フォーラム「NPO の最前線の活動から、市民社会の未来を考える」 参加者：51 名

◆日時、場所；10 月 11 日 18:30～21:00、文京シビックセンター4 階ホール

◆第 1 部：NPO セクターの現在の到達点 ー様々な分野で先端の活動をしている NPO

岩附 由香（認定 NPO 法人 ACE 代表）
 エディ （レインボープライド愛媛 代表）
 岡本 翔馬（認定 NPO 法人桜ライン 311 代表、事務局長）
 佐野 章二（有限会社ビッグイシュー 代表）

第 2 部：パネルディスカッション「NPO の視点から、市民社会の未来を考える」

* 第 3 回「NPO と政治ーNPO による社会変革と政治との関係性ー」 参加者：36 名

注) この回のみ、市民セクター全国会議との共催で開催した

◆日時、場所；11 月 23 日 13:00～16:00、聖心女子大学

◆登壇者：坪郷實（早稲田大学社会科学総合学術院 教授、NPO 法人まちぼっと理事）
 三木由希子（NPO 法人情報公開クリアリングハウス理事長、NPO 法人まちぼっと理事）
 関口宏聡（NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 代表理事）
 神田浩史（NPO 法人泉京・垂井 副代表理事）

* 第 4 回『NPO とシチズンシップ教育 ーNPO 法制定記録を未来へ活かそう』 参加者：36 名

◆日時、場所；2 月 11 日 14:00～17:00、快・決いい会議室 HALL-B

◆第 1 部：シチズンシップ教育と市民活動 坪郷實

2 部：NPO 法制定過程を事例としてシチズンシップ教育を考える、辻利夫、原田峻

3 部：パネルディスカッション； NPO とシチズンシップ教育

関口宏聡、新田英理子、三木由希子、坪郷實

* 上記の企画と寄贈内容等を含むアーカイブ HP を作成し、市民社会の基盤となることを目指す。HP は寄贈後の 7 月に完成させる。

4) 東京構想プロジェクト

事業目的	東京で暮らし、働く人々の視点から 2025 年の東京のビジョンとその実現の道筋を構想し、提案する。
事業手法	プロジェクトを形成し、東京構想 2016 とそのデータ編を作成する。
資金源	委託費 55 万円（東京・生活者ネットワーク）
事業期間	2016 年 4 月～10 月

■2016 年度事業内容

- ・メンバー；伊藤久雄、佐々木貴子、坪郷實、辻利夫、奥田裕之（以上、まちぼっと）、三浦一浩（地域生活研究所）、岩本博子、稲宮須美、橋本牧、小西美香、鳴海有理、渋谷恵美子、中村映子（以上、東京・生活者ネットワーク）、石川紀（東京市民調査会）
- ・プロジェクト会議；4/4、5/6、25、6/20、7/22、8/16、9/2、6、17
- ・東京構想 2016「市民がつくるく子ども・若者の未来」を拓く東京 ー人権を大事にする福祉社会の実現」を作成した。

2. 福祉のまちづくり

1) 高齢者等の住まい・暮らしを地域で支える政策課題の調査研究

■2016年度事業内容

2016年3月に作成した報告書「ご近所ささえあいのまちづくり - 地域福祉ニーズ調査報告書 -」を踏まえた、まちぼっとセミナーを実施した。

2) もうひとつの住まい方推進協議会（AHLA） 事務委託事業

もうひとつの住まい方推進協議会の事務局事務委託事業。委託費 44 万円。もうひとつの住まい方推進フォーラム 2016「空き家活用とまちづくり」を 11 月 12 日に芝浦工業大学で開催した。

3) スケルトン定借普及センター 事務委託事業

もうひとつの住まい方推進協議会に加盟する団体からの事務局事務委託。委託費 48 万円。スケルトン定借方式で建設された共同住宅の普及、相談などの活動を行った。

3. 市民活動・事業への助成の充実と強化

1) 草の根市民基金・ぐらん 助成事業

事業目的	市民からの寄付を資金源として都内の市民団体およびアジアで活動する NGO の市民活動・事業を支援する助成を行い、また助成団体と市民との交流を行う。
事業手法	市民の寄付を基金にして公開選考会で審査して助成を行う。また、年に 1 回交流会を開催する。
資金源	生活クラブ組合員を中心にした個人寄付金、生活クラブ生協からのご寄付（事業成果の社会化に対して）
事業期間	1993 年から継続（助成は 1995 年より開始）

■運営委員会

- ・運営委員会を 4 回（5/9、7/20、12/10、3/17）開催した。
- ・運営委員；樋口蓉子（まちぼっと）、土谷雅美（生活クラブ東京）、高田幸詩朗（NPO 法人 JAFSA）
牧田東一（桜美林大学）、山木きょう子（NPO 法人アビリティクラブたすけあい）
市橋綾子（東京・生活者ネットワーク）、高橋亮介（東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合）
相原光子、木村はるみ、山科涼子、朝倉順子、水野民恵、山口ミツ子（推薦枠）

■選考委員会

- ・公開選考会で運営委員とともに選考に加わる選考委員を、寄付者の中から下記の方をお願いした。
- ・選考委員；磯嶋志保子、牧野明美、長尾愛子、瀬戸由佳、西尾光子、坪井眞里、水野礼菜

■2016年度助成事業

都内で活動する市民団体、及びアジアを活動する NGO を支援する助成基金として、「草の根市民基金・ぐらん運営委員会」のもとでの助成事業及び交流事業を行った。

- ・2016 年度助成は、都内 300 万円、アジア 100 万円（新規 50 万円、継続 50 万円）とした。
- ・助成団体募集期間；10 月 24 日～11 月 19 日・助成説明会；11 月 7 日
- ・助成応募団体； 都内草の根助成 23 団体、アジア草の根助成 6 団体
- ・書類選考；12 月 10 日； 都内草の根助成 12 団体、アジア草の根助成 3 団体

- ・公開選考会；2月25日13:00～17:30 生活クラブ館地下ホール

都内7団体、アジア1団体に助成を決定した。

- ・アジア継続助成審査；3月17日（第4回運営委員会内） 1団体に継続助成を決定した。

■2016年度助成団体（助成総額400万円）

●アジア草の根助成 継続

NPO 法人日本・バングラ デシュ文化交流会	住民参加による持続可能な大豆入り学校給食の継続を支援する	50万円
---------------------------	------------------------------	------

●アジア草の根助成 新規

小さな美術スクール	カンボジア農村部に住む子どもたちのための美術教育活動	50万円
-----------	----------------------------	------

●都内草の根助成 新規

Survivors of Incestuous Abuse	絵を描くサロン@Siab	37.1万円
NPO 法人フードバンク狛江	地域における食のセーフティーネット事業の拡充	50万円
ST@キッズフェスタ	重度重複障害のある子どもの遊びを通じたコミュニケーション発達支援	26.9万円
一般社団法人 Colabo	孤立困窮した青少年に対するアウトリーチ支援者講座の実施	50万円
ワーカーズ・コレクティブ 子育て応援チームすこっぷ	ホームスタート・すこっぷ	44.3万円
NPO 法人 BEING DOING	高齢者のためのケア付就労事業—商店経営を通じて	48万円
NPO 法人 POSSE	奨学金に関する受付・情報発信及び政策提言	43.7万円

■草の根交流会、交流企画

- ・草の根市民基金助成交流会；8月27日（土）／生活クラブ館地下スペース

第1部を2014年度助成団体（2015年活動団体）の活動報告、第2部を生活クラブ運動グループを中心とした地域団体と、助成先NPOとのコラボレーションの可能性を探るラウンドテーブル企画、第3部を交流会として開催し、約60名の参加があった。

- ・下記の生活クラブブロック生協へ説明会を開催した。多摩南生活クラブ生協（7月1日）、

■募金実績

- ・2016年度の寄付金総額は5,866,413円。うち、生活クラブ組合員登録・OCR寄付5,619,400円、もったいないキャンペーン2016換金分111,211円、個人寄付135,802円となっている。
- ・その他寄付では、生活クラブ生協の展示会等を中心とした「ぐらんクッキー」「クリアファイル」による寄付と、切手・ハガキ等の物品寄付「もったいないキャンペーン2017」を実施。もったいないキャンペーンでは、85名からの寄付があった（換金後、2017年度寄付金として計上）。

■情報発信

- ・月に一度、メールマガジンの発行を行った。
- ・2017年度に向けて、新たなHPの作成とSNSを活用した社会発信のための準備を行なった。

2) ソーシャル・ジャスティス基金（S J F） 事業

事業目的	市民団体によるアドボカシー活動を推進する助成事業を行うとともに、対話による政策提案を实践する場を運営する。
事業手法	市民、企業など民間から寄付を募り助成を行う。また、市民対話による政策形成の場としてアドボカシーカフェを開催し、運営する。
資金源	寄付
事業期間	2011年から継続（助成は2012年より開始）

■運営委員会

- ・運営委員会を6回（4/22、7/15、9/9、10/25、1/27、3/21）開催した。
- ・メンバー；上村英明（恵泉女学園大学、市民外交センター*運営委員長）、樋口蓉子（まちぼっと*副運営委員長）、佐々木貴子（まちぼっと）、土屋真美子（まちぼっと）、辻利夫（まちぼっと）

■選考委員会

- ・メンバー；上村英明、樋口蓉子、佐々木貴子、轟木洋子（財団法人国際草の根交流センター事務局長）、大河内秀人、（見樹院住職）、中村国生（「多様な学び保障法を実現する会」事務局）、徳永洋子（ファンドレイジング・ラボ代表）

■企画委員会

- ・メンバー；土屋真美子、辻利夫、大河内秀人、寺中誠（大学教員・国際人権法専門）

■2016年度事業内容

助成事業は、テーマ1；「子ども・若者の未来に関する取組み」、テーマ2；「原発事故による社会課題解決への取組み」、テーマ3；「見逃されがちだが、大切な問題に対する取組み」、の公募を9月に行い、合計48団体の応募を受けた。選考委員による書類審査と面談審査を経て、3団体に合わせて300万円の助成を決定した（半額は中間確認を経た後に助成）。1月13日に助成発表フォーラムを開催した。また、対話を通して市民意見の形成を行うアドボカシーカフェを7回開催した。

ソーシャル・ジャスティス基金運営委員会をおよそ2か月に1回のペースで開催。運営委員会のもとに企画チームを設置し、分担して事業を実施した。広報活動として、事業及び活動報告（2016年6月）、ニュースレターの発行（2016年2月）、月1回のメールマガジンを発信した。

■資金調達

- ・2015年度の寄付金収入3,162,750円、事業収入227,484円、受取助成金100,000円となっている。大口の継続寄付者である企業が社内方針の変更により急遽2016年度からの寄付が取り止めとなった一方で、大口の個人寄付をいただくことができた。

■2016年度助成団体（助成総額300万円）

●テーマ1「子ども・若者の未来に関する取組み」

公益社団法人子ども情報研究センター	障害児施設市民訪問アドボカシー事業 — 障害のある子どもたちの尊厳を守るために (助成期間；2017年1月～2018年12月)	100万円
NPO法人 わかものまち静岡	市民としての若者の影響力を高める「日本版ローカルユースカウンシル」の開発と普及 (助成期間；2017年1月～2018年12月)	100万円

●テーマ2「原発事故による社会課題解決」 *該当なし

●テーマ3 「見逃されがちだが、大切な問題に対する取り組み」

NPO 法人 メコン・ウォッチ	日本の公的資金が格差社会を生まないために -ミャンマー で日本が関与する大規模開発事業に関するアドボカシー活 動（助成期間；2017年1月～12月）	100 万円
--------------------	--	-----------

■助成発表フォーラム、ソーシャルジャスティス・ダイアログ 2016

8月8日に、2015年度助成先3団体をお迎えした活動報告を含めた対話企画「ソーシャルジャスティス・ダイアログ2016」を開催した。また2016年1月13日に、四谷地域センターで助成発表フォーラム第5回を開催し助成3団体を発表した。

■アドボカシーカフェ企画

政策提案を多様な市民と市民団体等が平等に対話して形成することを目的とした、アドボカシーカフェを下記の通り開催した。

①第42回 「票育 — 若者と政治が会おう新しい授業の作り方」

◆日時、場所； 4月13日（水）18：30-21：00 文京シビックセンター 参加者；43名

◆ゲスト： 保坂 展人（世田谷区長）

後藤 寛勝（僕らの一歩が日本を変える。代表理事）

②第43回 「加害者と被害者 — 家族支援について考える」

◆日時、場所； 5月23日（月）18：30-21：00 文京シビックセンター 参加者；49名

◆ゲスト： 片山 徒有（被害者と司法を考える会代表）

阿部 恭子（WorldOpenHeart 理事長）

③第44回 「政治と放送 — 視聴者の信頼は」

◆日時、場所； 6月17日（金）18：30～21：00 文京シビックセンター 参加者；22名

◆登壇；吉岡 忍（元BPO放送倫理検証委員／日本ペンクラブ専務理事）

立山紘毅（山口大学経済学部教授）

白石 草・コメンテーター（NPO法人 OurPlanet-TV 代表理事）

④第45回「市民発の立法 — 教育機会確保法を考える」 参加者；34名

◆日時、場所； 7月12日（火）18：30～21：00 若松地域センター

◆登壇；西原 博史（早稲田大学社会科学部教授）

寺中 誠（大学教員・国際人権法専門）

⑤第46回「難民と生きる—ヨルダンと日本の支援現場から」 参加者；23名

◆日時、場所；10月18日（金）18：30～21：00 文京シビックセンター

◆登壇；内海 旬子（日本イラク医療支援ネットワーク）

鶴木 由美子（認定NPO法人難民支援協会）

⑥第47回「3.11後の子どもと健康 — 学校と保健室は何かができるか」 参加者；38名

◆日時、場所；11月19日（土）13：00～15：30 見樹院

◆登壇；大谷 尚子（養護実践研究センター代表／茨城大学名誉教授）

松田 智恵子（宮城県大崎市立の小学校 養護教諭）

⑦第48回「障害や病気をもつ家族をケアする子ども・若者たちに希望を」 参加者；23名

◆日時、場所；3月29日（水）18：30～21：00、文京シビックセンター 4階 シルバーホール

◆登壇；松崎 実穂（国際基督教大学ジェンダー研究センター・研究所助手）

井手 大喜（草加市議会議員）

3) 「明日へ基金（あしたへききん）」委託事業

事業目的	練馬区内で活動する子ども・若者支援をしている団体等に助成し、活用してもらうことを目的とする。
事業手法	基金による助成を2016年、2017年に各一回行い、その後に助成団体と市民との交流会を開催する。
資金源	練馬区の市民による受託金
事業期間	2016年、2017年度（2年間で終了）

■運営委員会

- ・運営委員会を6回（4/22、5/19、6/14、8/17、10/18、2/14）開催した。
- ・運営委員； 伊藤久雄（運営委員長）、佐々木貴子、樋口蓉子、大西由希子、辻利夫

■助成事業

助成期間を、第1回2016年10月～2017年9月、第2回2017年4月～2018年3月とし、年度内に2回の助成を行なうこととした。

*第1回助成選考

7団体から応募があり、8月17日の書類選考で6団体を選考し、9月10日の公開選考会で下記の団体へ総額100万円の助成を行なった

南田中のまちを考える会	地域小学校社会科授業支援「地域調べとまち探検」とガイドマップ作り	13万円
NPO法人 保育サービスぽてと	親子のひろば「ありんこぽてと」	10.4万円
なゆたふらっと	平日活動、定例イベント、不定期イベント、石神井ゆうやけ子ども食堂	20万円
ダイコンこども食堂	ほぼ毎日立ち寄ることができる子ども食堂を目指して	20万円
こどもにやさしいまちづくり研究会	こどものまち大泉学園町	20万円
楽多舎	親子カフェ	16.6万円

*第2回助成選考

11団体から応募があり、2月14日の書類選考で7団体を選考し、3月11日の公開選考会で下記の団体へ総額100万円の助成を行なった

NPO法人 act 練馬たすけ あいワーカーズ ふろしき	ふろしき こども食堂	7万500円
石神井・冒険遊びの会	連続3日！夏休みプレーパークの開催	16万円
川と水辺を楽しむプロジェクト	石神井川をよく知る、楽しむ、未来に繋ぐ	13.2万円
NPO法人 I am OK の会	発達障害児家族支援サポーター養成	20万円
アフタースクール サポートプロジェクト “マイケルハウス”	子ども達の休日のサポート	17.5万円
なゆたふらっと	石神井ゆうやけ子ども食堂	14万2500円

ねりま不登校・ひきこもり家族会「ともしび」	ねりま不登校・ひきこもり家族会「ともしび」立ち上げ	12万円
-----------------------	---------------------------	------

4) 新宿区市民ファンド企画

事業目的	新宿区内にある社会提言活動を行なっている市民ファンドが共同し、区内で企画を行うことで活動の認知を広めていく。
事業手法	新宿区内にある宗教施設（教会、お寺）と連携した企画を行う。
資金源	2016年度活動については自己財源 2017年1月～12月の活動に対して市民社会創造ファンドより助成
事業期間	2016年度（助成事業は2017年4月より開始）

■2016年度事業内容

新宿区に拠点を持つ高木仁三郎市民基金、難民起業サポートファンド、税務及び法律の専門家とともに新宿区内の寺院や教会との下記のコラボレーション企画を行った。

①「震災から5年、福島の間を知る& 社会を良くする寄付を考える」

◆日時、場所； 2016年4月24日(日) 15:00-17:00、 一心山 専念寺 一般参加者；10名

◆登壇； 菅波 完（高木仁三郎市民科学基金事務局長）

早坂 毅（税理士、行政書士）

◆後援； 新宿区、新宿区社会福祉協議会

②「垣根を越える -breaking down barriers」

◆日時、場所； 8月26日(金) 19:00～21:00 ルーテル東京教会 参加者；38名

◆登壇； 室井舞花（教科書にLGBTを！ネットワーク共同代表／「恋の相手は女の子」著者）

関野和寛（ルーテル東京教会牧師／牧師 ROCKS）

③「ヘイトのとなりにある希望」

◆日時、場所； 10月21日(金) 19:00～21:00 ルーテル東京教会 参加者；29名

◆登壇； 生沼ジェイコブ、船橋諒、ジェネシス・カブコス、小池由樹

(CCS世界の子どもたちと手をつなぐ学生の会)

関野和寛（ルーテル東京教会牧師／牧師 ROCKS）

加藤梅造（ロフト・プロジェクト）

■その他

- ・2017年1月～12月までの当事業を対象とした助成金を、市民社会創造ファンド「市民ファンド推進プログラム」より60万円いただいた。2017年4月から予定している企画で活用する。

5) 「市民ファンド推進プログラム」運営コーディネーター委託事業

市民社会創造ファンドの中に設立された、「市民ファンド推進プログラム」の運営コーディネーターを行なった。（上記との利益相反を避けるため2016年8月で終了）

4. 委託事業、活動支援

1) 桜美林大学「NPO/NGO実務実習A、同B」

■2016 度事業内容

事務局の奥田が非常勤講師として、毎週金曜日の 5 時限の授業と個別指導を担当

- (1) 前期事業「NPO/NGO 実務実習 A」 + インターンの調整
ゲスト；アクションポート横浜、難民支援協会、NPO 法人 Rebit
- (2) 後期授業「NPO/NGO 実務実習 II」 + 事業計画の作成コーディネーター
ゲスト；加藤俊也氏（公認会計士）、田中優氏（未来バンク）

2) 築地市場、豊洲移転問題 政策立案プロジェクト

■2016 度事業内容

都議会生活者ネットワークより、築地市場の豊洲移転問題の政策立案に関する調査研究事業を受託した。期間；2017 年 2 月～6 月 30 日

3) 活動支援

(1) 市民活動への協力・支援

- ・新宿区 NPO ネットワーク協議会（樋口・理事）
- ・インクルーシブ事業連合（佐々木・理事）
- ・東京コミュニティパワーバンク（佐々木・理事）
- ・生活クラブ運動グループ・東京連絡会（佐々木）
- ・アビリティクラブたすけあい(辻・理事)
- ・NPO バンク連絡会（奥田）
- ・コミュニティネットワーク協会（辻・常務理事）
- ・日本 NPO センター（佐々木・評議員）
- ・市民ファンド推進連絡会（奥田・代表世話団体）

(2) 自治体事業など支援

- ・新宿区立 NPO 事業推進センター事業運営委員会（奥田・委員）

4) その他、講師派遣、相談助言、企画協力、ヒアリング取材など

- ・近畿大・吉田教授 ヒアリング ; 5 月 14 日 (辻)
- ・柳原弁護士 相談 ; 5 月 18 日 (辻)
- ・新宿区 NPO まつり参加 ; 5 月 29 日 (奥田)
- ・丸山氏 (NPO 法人さくら) 相談 ; 6 月 1 日 (奥田)
- ・菊池氏 (練馬・楽多舎) 相談 ; 6 月 15 日 (辻)
- ・大谷氏 (アビリティクラブたすけあい) 相談 ; 7 月 11 日 (辻)
- ・新宿 NPO 活動基礎講座講師 ; 7 月 13 日 (奥田)
- ・インターンシップ (跡見学園女子大学、保坂仁美さん・加藤冴衣さん) ; 8 月中 5 日間
- ・斉藤明子氏・相談 ; 8 月 2 日 (辻)
- ・雲南市、浜崎氏来訪 ; 8 月 8 日 (辻)
- ・アプライズ岩堀氏・相談 ; 8 月 29 日 (辻)
- ・新宿区、助成金講座企画登壇 ; 9 月 6 日 (奥田)
- ・目白台の高野瀬氏、知人の空き家活用で相談 ; 9 月 15 日 (辻)
- ・日本 NPO センター、市民ファンド講師 ; 9 月 20 日 (奥田)

- ・楽多舎の菊地氏、清水氏相談； 10月18日（辻）
- ・立教大学大学院講師； 11月9日（奥田）
- ・高知商業高等学校ヒアリング； 11月17日（奥田）
- ・中央労金セミナー講師； 11月30日（奥田）
- ・東京新聞取材； 12月8日（辻、瀧川、奥田）
- ・協働ネット品川学習会企画会議； 12月15日、2月27日（辻）
- ・協働ネット品川学習会企画； 3月17日（辻）
- ・大河原事務所、里山PJ相談； 3月22日（辻、伊藤）
- ・NPO 法人日本子どものための委員会（渡辺俊一氏、渡辺紀久子氏）相談； 3月27日（奥田）

5. 事業を推進するための情報発信

1) 情報発信

(1) まちぼっとセミナー

2016年度は下記のまちぼっとセミナーを開催した。

◎杉並発！地域ささえあいのまちづくり -ご近所から市民がつくる地域包括ケアを展望する

◆日時、場所； 3月25日（土）13:30～16:00

◆登壇；伊藤久雄、樋口蓉子、秋山糸織（けやきの見える家運営委員）

笹室学（杉並区地域包括支援センター・ケア24 善福寺センター長）

(2) 季刊誌

NPO 法人市民がつくる政策調査会と共同して、市民による自治体・国の政策提言活動に寄与する季刊誌を年に4回発行した。

○「季刊アドボカシー」No.4 2016年4月発行

特集：人身取引にどう向き合うか -被害者を支援し、性的・労働・臓器の搾取・売買のない社会へ

1. 売買される日本子どもたち -背景にひそむ人権意識とは

2. 議員提案・議員立法化の取組み -性暴力・性犯罪被害者の支援制度を中心にして
阿部知子 衆議院員 インタビュー

3. 人身取引規制等に関する国連・EU・諸外国の動向

-性的・労働・臓器 搾取規制、買売春の捉え方・規制のあり方を概観する

4. 人身取引対策の日本の現状 -規制制度の現状と被害の実態から

5. いわゆる「JK ビジネス」規制に関わる自治体の動向 -動き始めた自治体規制

【Advocacy Column】 人身取引・児童買春と憲法

【活動ニュース】 認定NPO 法人まちぼっとの活動、市民がつくる政策調査会の活動

○季刊アドボカシー No.5 2016年9月発行

特集「生活保障と自立支援政策 -経済的困窮・社会的排除のない社会へ」

1. 生活保護バッシングに抗して活用策を考える -SJF アドボカシーカフェから

2. 生活困窮者支援等に関する国連・EU・諸外国の動向 -貧困・社会的排除対策、公的扶助制度を概観する

3. 生活保護・生活困窮者支援制度の活用 -自治体・地域での取り組みから

4. 生活困窮者支援制度」と各種制度との関係 —国内法制度の動向など
5. 当事者支援・自治体の動向—生活困窮者自立支援事業等への共同調査、実施状況調査から
【Advocacy Column】生活保障と憲法

○季刊アドボカシー No.6 2017年1月発行

特集「18歳選挙権と選挙運動規制 —だれもが自由に参加できる選挙・政治活動のしくみへ」

1. 「票育」—若者と政治が会う新しい授業の作り方 —SJF アドボカシーカフェから
2. 18歳選挙権導入の意義と課題
3. 公職選挙法改正の経過と今後の取組み —18歳選挙権導入を契機にして政治に向き合おう
逢坂誠二衆議院議員インタビュー
4. 国連、EUにおける参政権規定と選挙権・被選挙権年齢、選挙運動規制に関する諸外国の動向
5. 18歳選挙権に関する国内法制度の経過と参議院議員選挙、自治体の動向
6. だれでもが参加しやすい選挙運動・政治活動に向けて—公職選挙法の課題と改正に向けた取組みから

【Advocacy Column】選挙と憲法

○季刊アドボカシー No.7 2017年3月発行

特集「オルタナティブな教育政策 —学校にとらわれない多様な学び方・学びの場のある社会へ」

1. 教育機会確保法をめぐって
学校以外の多様な学びを認める制度へ、ぎりぎり風穴をあけた教育機会確保法
；中村国生さんインタビュー
「教育の機会」の多様化は子どもたちの分断を助長する —不登校対策の検証と
「学校を休む権利」の保障を —；内田良子さんインタビュー
2. 市民発の立法—教育機会確保法を考える —SJF アドボカシーカフェから
3. 教育の権利等に関する国連・EUの規定とアメリカ・オランダの学校選択制度
4. 「教育機会確保法」の概要—国会審議の要旨から
5. 教育機会の多様化に関する自治体などの取組み

【Advocacy Column】教育と憲法

(3) 書籍

2015年度に開催したまちぽっとセミナーを題材に書籍を作成した。(発行は4月)

■「自治体庁舎建設の入札・契約方式 早わかり」

著者：伊藤久雄（認定NPO法人まちぽっと理事）、三島富茂（総合環境研究室 前代表）
畑山 弘（昌平橋CM研究会 代表理事）

発行部数：500部 B5版本文モノクロ 120頁 価格：¥1,200+税

(4) HP、メーリングリスト

- ・まちぽっと及びぐらんのHP更新関係作業を、狩谷眞理氏へ委託した（4月～10月）。
- ・まちぽっと、ぐらん、SJFのHP、ぐらん、SJFのメーリングリストを管理した。
- ・ぐらんのHPを2017年度に更新し、同時にSNS関係を充実し活用するための作業を行なった。

2) 新聞報道など

- ・NPO法記録、国立公文書館寄贈PJ；日本経済新聞「論点争点」6/27
- ・ソーシャル・ジャスティス基金；東京新聞「メトロポリタン」1/18